

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501193		
法人名	有限会社 富士松		
事業所名	グループホーム輪楽笑Ⅱ(ワツハツハー ツー)		
所在地	愛知県春日井市白山町5丁目8番地6		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2372501193-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「輪になって楽しく笑って暮らそう」との名称で平成14年に開所した当施設は、環境の良い住宅地にあります。入所者の皆さんは毎日楽しく過ごしておられますが、昨今はコロナウイルス感染予防の為、地域行事参加(出席)や外出等控え、大変ご不自由をお掛けしております。施設では常に思いやりと優しい心のこもった介護に努めております。ご家族にはメールや電話の他に毎月の「輪楽笑Ⅱ便り」で日常の出来事をはじめ詳細な介護記録を報告しております。地域の方々からは「輪楽笑の皆さんは、コロナは大丈夫ですか？お元気ですか？」と声を掛けて頂き、変わりなく信頼は高く親しまれております。4年近く、施設職員一丸となってコロナウイルス感染予防に対応しており、引き続き皆さんが安心して過ごせる態勢に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方との交流については、ホーム長が地域の方でもあり、地域の様々な活動に参加していることで、地域の方にホームを知ってもらう機会にもつながっている。家族との交流についても困難な状況が続いているが、メールを利用した家族との情報交換の機会を増やす取り組みが行われており、家族との情報交換を通じて、利用者に関する細かな報告や情報交換が行われている。当ホームの運営法人については、法人代表者が交代しており、新たな体制に意向しているが、新たな就任した法人代表者も地域の方でもあり、地域の方との交流等の取り組みが行われている。ホームの日常生活については、1ユニットの少人数のホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で利用者の関する検討を行いながら、利用者一人ひとりが望んでいる生活の実現につなげる支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者が自分らしく、地域で暮らし続ける事が出来るようサポートすることを「「ホームの理念」とし、変わることなく毎日楽しく暮らして頂ける様に心掛けている。	利用者が地域の中で自分らしく生活することができることを目指した内容の理念を掲げており、日常の支援を通じて、理念の共有と実践が行われている。また、ホームには勤務年数の長い職員が多く、日常的に理念の内容の共有が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ以前は地域行事に参加、出席していたが、4年近く参加していない。外出も控えている。	ホーム長が地域の方でもあり、地域の様々な行事等に参加、協力が行われていることもあり、ホームを通じた地域の方との交流にもつながっている。地域の取り組みでもある「元気の出る会」への参加については、現状、中断している状況でもある。	地域で行われている「元気の出る会」への参加等、今後の感染症等の状況もみながら、交流の再開につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の65歳以上の方を対象とした「元気の出る会」では認知症についての理解や支援方法についてお話するなどしています。またR5年2月には地域包括支援センターの要請で施設長が高蔵寺ふれあいセンターにて認知症についてのお話をしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回を基本として開催している。公的機関の他、民生委員や地元町内会、社会福祉協議会の方が会議に出席され色々参考になる意見も頂いている。今年はコロナの関係で5回の開催だった。(R5.2月中止)	会議については、関連事業所とも連携を行いながら、基本的に対面方式での会議を実施しており、会議の関係者との交流が行われている。また、会議の場所を運営法人の事務所で行っており、感染症対策が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所の元職員が施設長である。市役所とは日頃の連絡が簡単に取れるようになった。また、市・地域包括支援センターとも色々な情報がすぐ入り、連携はスムーズである。	ホーム長が元市職員でもあったこともあり、市担当部署との定期的及び随時の情報交換等が行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われており、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	動く自由が入所者の基本であり、現在も行動を制限することはない。外出する時は職員が同行し、安心安全に努めている。玄関は防犯上18時以降は施錠している。現在も身体拘束はないが、必要な場合はご家族の許可を頂くとしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関に施錠を行わない等、職員間で利用者の見守りが行われている。身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年度初め毎回必ず「虐待防止、身体拘束の適正化の指針」の研修を実施し、虐待等に関する事は十分理解をしている。利用者に対して一番大事なことで、「優しい気持ち」で接するよう全員が努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講習会や研修会などの資料で職員は、利用者さんが「いつまでも自分らしく安心して暮らし続けるには」何が必要かを説明すると共に供覧し認識している。成年後見人制度については現在は特に学習していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	従来通り変わりなし。入所時に契約に関する内容を十分説明しており、体験入所(宿泊)を行うと共に納得の上で入居契約をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所されたときは、各自の部屋に案内したり、事務所にてご意見を伺っている。家族からのご要望は時々あるが、クレームは無い。また、内容によっては全体会議の場や運営推進会議の場でも状況を伝えている。	家族の中には、利用料の精算を通じて訪問している方もあり、利用者との交流にもつながっている。家族からの要望等については、ホーム長が対応し、法人代表者にも報告している。また、ホーム便りの他にもメールを活用した情報交換も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は月1回の「全体会議」において、運営に関する意見を述べ、職員からも意見を聞き、反映させている。職員から運営に関する意見は殆どない。職員間の「連絡ノート」は十分活用している。	1ユニットのホームである利点も活かしながら、職員からの意見等をホーム長が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、運営法人の法人代表者が交代していることもあり、新たな体制に移行している段階でもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務日数や賃金など職員の為になることは管理者なりに色々工夫、努力はしているが、空室が多いため一部の職員からは給料が少ないと不満もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修も受講希望者は受けているが、若い職員の雇用が難しい。職員の高齢化に伴い、トレーニングに行く体力が無い。近場にもそのような施設は無い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの事もあり、最近では交流会等出席は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前には必ず本人と面接、利用者本人の意向や希望を聞いているが、ご本人の認知症により、自分の意見はあまり言えない。入浴時など1対1でゆっくり親密な会話の機会が多くなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との面談を通じて、利用者の現在に至るまでの生い立ち等を詳しく聞き記録している。困っている事や不安に感じていることをよく聞き、対応している。入所に都合の悪い事は教えてくれず、後から困る事もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の希望、本人の希望や状況をよく観察している。本人にとってどうする事が一番良いのか、どのように支援すべきかを見極める努力を常にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の方々を、人生の先輩として知識や経験した事を聞き、話題を共有している。常に「利用者が基準」という立場に心掛けている。どの職員も「自分の親」と思う心で介助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入所後、協力が弱まる事がある。「仕事が忙しいから～」と月1回の支払いでの面会に来所されない方もある。家族の方は少し離れた場所からが良いが、親を見守り続けて頂きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人が訪ねて来る事は殆ど無い。昨年に続いて令和5年5月頃まではコロナウイルスの事もあり、家族・知人等の来所も自粛して頂いた。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、可能な範囲で交流を継続し、入居前からの方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出も再開しており、身内の方の墓参り等を通じた交流にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者ができるだけ一人にならない様、レクリエーションや簡単な手作業を一緒にして頂き、利用者間で協力し合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設を退所される時いつも「困った事があつたら相談して下さい」と伝えているが、令和元年以降5年度途中までは訪問等の実績は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	歌の好きな人、テレビの好きな人、外出の好きな人、それぞれの意向を聞いている。本音を言わない人もある。令和5年度も外出はコロナの関係で近場のドライブ程度で殆ど無い。	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われているが、職員間で利用者を担当する取り組みも行われている。毎月のカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	昔の思い出や、楽しかった出来事、自分が描いた絵を自室に飾ったり、知人や家族の話題など、家族の協力を得て、色々なことの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各自それぞれに合わせる事は難しい。比較的活動量の少ない人に合わせる事が多い。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	前年度に続き令和5年もコロナウイルス感染予防の為、家族の訪問が限られお話しする時間が少なかった。現場の意見も十分ケアプランに反映して、現状に即した介護計画であると思う。また月1回の全体会議や連絡ノートにて、意見を出し合っている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも1日1ページの記録用紙の活用も行いながら変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者ごとに、毎月記録している。「介護記録」「連絡帳」を参考にして情報を共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期的な訪問診療時の職員の対応は勿論の事、急な病院への同行などもこれまでと変わりなく行っている。また、家族に代わって市役所の窓口へ行くこともあり、手続き等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地区社協の「元気の出る会」に毎月参加していたが、コロナウイルスの影響で4年度に続き今年も色々な行事が中止等で外出も控えた。地域の方々が優しく支援してくれているのでコロナ収束後は引き続き参加を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月の訪問診療や年一回の高齢者健診の同行の他、救急時なども含めその方に合った適切な医療を受けられるように支援している。今年もかかりつけ医の病院で利用者全員、職員もコロナワクチン接種をして頂いた。	協力医との定期的及び随時の連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。受診については、家族による対応とホーム職員による対応が行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	薬の管理は勿論、排便、排尿等健診の管理から食事の介助まで日々の支援もしてくれます。定期健診時の付き添いや健康に関する助言もしている。毎日、看護師が居るような勤務体制になりつつある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーで情報を提供している。入院中は面会を重ねながらご本人の回復状況を把握し、家族、病院関係者と連携をとり、退院後の生活についても話し合いを行っている。令和5年は2名の方が入院された。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	常に身体状況を伝え家族の意向を中心に話し合い、ホームで出来る事を説明している。終末期の支援のあり方については余り詳細な事は分からないが、最後は病院での看取りになることは十分伝えてある。急変の場合主治医との連絡方法について確認をしている。	身体状態が重い方も、ホームでも可能な範囲で支援が行われているが、現状、ホームでの看取り支援は行われていない。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、医療機関や特養等、次の生活場所への移行支援も行われている。	ホームでは、看取りに関する指針をつくる等、看取り支援を見据えた体制づくりも想定している。今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを職員研修で確認し、備えている。緊急時対応は「救急時利用者情報」を準備しており、職員間は勿論即時に医療機関と連携できる態勢です。実践力はほぼ身に付いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のマニュアルを項目ごとに作成見直ししながら、緊急時の対応を認識させている。5年度は8月に職員4人が消防署の研修に出席した。9月には市が地域で行う「防災講和」に施設長が出席している。近隣住民に協力して頂ける様町内会に加入している。	年2回の避難訓練を実施しており、通報装置の確認等、職員間で連携した取り組みが行われている。夜間想定訓練については、職員研修等を通じて周知が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	職員が少なくなる夜間を想定した訓練の実施や周辺地域の住民が増えていることもあるため、近隣地域の方との再開に関する協力関係にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の立場に立って、利用者の尊厳、プライバシーを尊重した言葉をかけ、時には事務所に入って頂きゆっくり話すこともある。耳の遠い方が多く、本人の事を思い大きな声を出してしまうこともある。	多くの職員が勤務年数が長いこともあり、利用者への対応や言葉遣い等についても職員間で意識するような取り組みが行われている。また、利用者のおしゃれに関する支援も行いながら、利用者を尊重した対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症のため難しい決定は出来ないが、「こっちか？こっち？」と二者択一なら出来る。出来る範囲で希望は叶えている。出来ない人は職員が決定する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	いつも変わることなく利用者の立場に立って、出来る限り利用者個々に合った支援を継続している。今年もコロナで外出はほとんど無い。全て希望に添えないが安全には心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今年から訪問美容を再開しヘアカットをもらい「髪を切って少し若くなったね」「その服とても似合うね」等相変わらず声掛けをしている。昨今コロナで外出はないが、外出時には一緒に服を選び支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の重度化が進み、食事の準備は殆ど出来なくなった。食事を少しでも楽しいものになるよう、好みや量を聞いています。出来る方は食後の食器拭きなどの片付けは職員と協力して行っている。	ホーム内で調理を行い利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者も調理や片付け等、できることに参加する取り組みが行われている。季節等にも合わせた食事の提供も行われており、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食前にその人の食事量を確認して把握している。家庭的な料理で完食を目指している。夏季に「食中毒」「熱中症」に注意している。今年も暑い日が長く続き、常にテーブルに麦茶等を置き利用者には十分に水分を摂って貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、毎食後自分で出来る方はして頂いている。介助が必要な方も出来る限り歯磨き介助を行い、入れ歯の方もきちんと対応している。ご本人の力に応じて口腔ケアを継続している。ここ数年は変わりなく定期的に歯科医院の施設訪問検診(治療)をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	リハパン、パットは使用しているが、定時誘導でトイレで排泄して頂いている。自立の事はお一人で行って頂いている。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換等を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善につなげている。また、看護師による排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操と食前の簡単なストレッチをし、体を動かすようにしている。水分や野菜を多く摂り、便秘予防をしている。下剤は使用していない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週3回を基本に、個人の希望を出来る限り叶え、一人ひとりに合った入浴を勧めている。当日「入りたくない」と言われれば無理には入れず、体調や気分に応じて支援しています。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら、定期的な入浴が行われている。毎日の入浴の準備が行われていることもあり、利用者の様々な状況に合わせた随時の対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活状況を把握し、疲れが溜まらないよう体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。日中適度な活動を促し、生活リズムを作るように心掛けている。今年も暑い日が続く空調設備を十分活用し安眠出来るように支援した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護職員の指導の下、適切に対応している。薬の説明書を利用者ごとファイルして連絡ノートでも確認している。薬は手渡しや口に入れたりして確実に服用したか確認している。これまでと変わらない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日替わりでいろいろ行っており、それぞれの要望、希望に近づく様対応している。テレビは時代劇、歌謡番組、職員と一緒に歌ったり、紙芝居などが好きで楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	外出は天候・体調に合わせ、本人の希望を聞きながら支援しているが、令和2年から続き令和5年もコロナウイルス感染予防の為、かなり外出を自粛した。収束したら、十分楽しい時間を作ってあげたい。地域の支援はあるが、家族の協力は難しい。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームでは徐々に外出の機会を増やす機会をつくっている。季節等にも合わせた外出行事や弁当を持って公共施設に出かける取り組み等、可能な範囲で外出の機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者は自己管理が出来ないのでお小遣いは事務所で預かっている。買い物をして自分でも自分で支払う事は出来ないで職員が支払い等をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたり、家族から本人のにかかる事は殆ど無い。家族に伝えたいこと、家族から伝えて欲しいことはキチンと支援・対応している。利用者は何方も何にも出来ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間、廊下等に利用者が職員と一緒に作成した作品をはじめ、絵画や写真などもあり、家庭的な雰囲気を感じてもらっている。いつも変わりなく、季節に合った花を飾り毎日が居心地良く過ごせるようにしている。	ホーム内は広めの空間が確保され、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮が行われている。また、リビングと利用者の居室が離れた場所にあることで、メリハリのある生活にもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	最近利用者同士の笑顔での会話や交流が増えた。一部の方は自室で会話をしたり休息をしながら、一人でテレビを楽しまれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人の使用していた家具を置き、家族の写真や、自分の絵画を飾ったり、安心して居心地良く過ごせる様な配慮をしている。	居室には利用者や家族に意向等にも合わせた家具類や好みの物等を持ち込む等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、和室についてはフローリングに取り替える対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	脱衣場に暖房設備、扇風機を設置するなど、利用者の身体状況に合った環境設備に努めている。施設的环境や毎日のミーティングで話し合っている。令和5年も猛暑に対応した。トイレ、浴室の表示はしてありますが、判断が出来ない方もおられます。		